

109 學年度第一學期 Eurasia 基金會國際講座

「アジア共同体：東アジア学の構築と変容」 (12)

議題：日本語探索—東アジアからユーラシアへ—

第12回 Eurasia 基金会国際講座は、本校日本研究センター主任陳順益教授に日本語研究の成果を語ってもらった。陳教授の講演内容の前半は日本語を構成する漢字の読み方を検討し、後半は和語とヘブライ語の類似性を探った。

陳教授は日本語の漢字の伝来時期は異なるため、漢字音（読み方）も異なり、呉音、漢音、唐音等があることを指摘した。漢音とは唐の長安周辺の音で、遣隋使、遣唐使時代に大量に伝えられた。呉音は中国南方の音のことで、5、6世紀に朝鮮半島経由で伝来した。唐音は宋代以後に、宋音は元、明代に伝わり、多くは仏教用語に使われた。例：行政（ぎょうせい—呉音）、銀行（ぎんこう—漢音）等。

その他に、漢字音は中国から伝わったため、必ず漢字の読み方の規範に則ることを指摘した。台湾語、華語の漢字音から大体日本語の漢字音を推測できる。原則として、華語の発音が同じで、台湾語の発音も同じなら、日本語の発音も同じである。

それから促音の規則を説明し、促音は中国語の入声字（PTK）に合わさると生じる。それには以下の三種ある。

(1) T 入声字（チ・ツ）：T+HTK 行子音の時に促音が生じる（Hの元はP）。例：八（はち）+本（ほん）⇒（はっほん）等。

(2) K 入声字（キ・ク）：K+K 行音の時に促音が生じる。例：学（がく）+校（こう）⇒（がっこう）等。

(3) P 入声字：多くはU音に変わり、ごく少数の例しかない。常用漢字表中ではわずかに十、入、雑、甲、納等のみである。例：十本（じゅっほん）、入声（にっしょう）等。

他に撥音の規則について、華語の an、en の音は日本語では原則的に「ん」で発音される。例：安（あん）、陳（ちん）。華語の ang、eng は日本語では原則として「い」もしくは「う」で発音される。例：長（ちょう）、正（せい、しょう）。

上記の特殊拍および単音以外に、日本語の単音節二拍の漢字音は「い i」ではなく、「う u」で発音される。

後半は、近年研究者が発見した日本語とヘブライ語の類似性に言及した。研究

者の発見によると、日本には古代シュメール文化、ユダヤ教などに類似した風俗文化が多い。そこからいわゆる日猶同祖論の仮説が生じた。日猶同祖論はスコットランドの伝道師ノーマン・マクドナルドが伝教の方便に生み出した説で、日本人はユダヤ人（失われた十支族）であるという概念を提起した。しかし、現在の鑑定の結果、日本人の遺伝子とユダヤ人のそれが異なることは、この説を否定する確かな証拠であり、多くの歴史研究者も日猶同祖論に対して慎重で、牽強附会とする立場を取っている。しかし、言語学の観点から見ると、両者が9000キロの距離で隔てられているのに、なぜ偶然的な共通点があるのか。例：日本の天皇家（菊の御紋）と古代ユーラシア文明（エルサレム北面のヘロデの門）。初代神武天皇はヘブライ語を用いたのか。日本の天狗とイスラエル人が礼拝時にかぶるものが同じなど。川守田英二は『日本言語考古学』および『日本ヘブル詩歌の研究』で、多くの例を提示して、日本語とヘブライ語の類似性を証明しようとした。

陳教授は結論でこう述べる。言語学の観点から日本語の漢字が中国伝来であることは疑問の余地がなく、そのため日本語の漢字の読み方はある程度華語および台湾語から推測可能である。しかし、日本語の和語と、はるか遠くのヘブライ語に驚くくらい不思議な共通性があることは、言語の恣意性という原則に反する。もっとも日本語と古代ヘブライ語に直接の関連性があるか否かは、なお多くの客観的な研究による確認が待たれる。

(Web サイト:<https://Eurasia.pccu.edu.tw/faculty.php>)

(原稿:陳毓敏・日文系副教授)

(日本語訳:塚本善也・日文系副教授)